

🐾 映画「もののけ姫」から見える獣害対策

皆さんは、映画『もののけ姫』をご覧になったことがありますか。

人間と野生動物を含む自然との関わり方を描いた映画です。(様々な解釈があります)。

物語は、主人公アシタカの暮らす村に、イノシシが「タタリ神」となって襲いかかる場面から始まります。

この冒頭のシーンには、当時の獣害対策が数多く描かれています。

「タタリ神」となったイノシシは、シシ垣を壊して村へ侵入します。

そして、その異変にいち早く気づききっかけとなったのが「物見やぐら」です。

『もののけ姫』の舞台は室町時代とされていますが、

この時代には、物見やぐらやシシ垣などを活用し、地域ぐるみで獣害対策が行われていたことが分かります。

物見やぐら



タタリ神が
シシ垣を
壊すシーン

余談になりますが、作中には猩々(しょうじょう)という生物が登場します。

猩々たちは、自分たちが生きるために、人間によって荒らされた山に木を植えようとします。

しかし、人間が山を破壊し続けることで、

「木植えた。木植え、木植えた。みな人間抜く。
森戻らない。人間殺したい」

と、人間への憎しみを募らせていきます。

現代では、動物が人間の生活を脅かす立場になるので、
その対比が、非常に印象に残ったシーンでした。

【愛知県内にもシシ垣が現存してます！】

岡崎市にある、万足平の猪垣。なんと、延長距離は612m！

当時の人々が、切実な思いで

一つ一つ石を積み上げて築いたことがうかがえます。

額田地域南部を流域とする男川上流部に位置し、
現在もなお、

当時の原形を保ったまま保存されているそうです。



けもの通信



2026

2

1月25日発行

🐾 (少し遅めの) あけましておめでとうございます！

こんにちは！地域おこし協力隊の小川晴那(おがわはるな)です。

皆さま、あけましておめでとうございます。新年早々、諸事情により1月号が発行できませんでした。

楽しみにしてくださっている方、申し訳ありませんでした。今回が今年初のけもの通信です。

昨年の5月に東栄町移住し、あっという間に年を越してしまいました。

皆さんの鳥獣被害対策にお役に立っているか分かりませんが、

今年も「けもの通信」を発行していきますので、お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

新年1発目は、変わり種、「野生動物と人との歴史」についてお伝えしたいと思います。

ありがたいことに「けもの通信を手元に残したいんだけど..。」と言ってくれる方が出てきました！



← 『けもの通信』は 町のホームページに掲載しております。

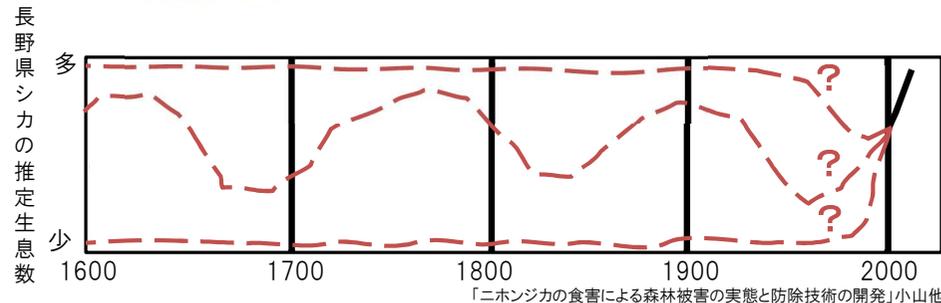
また、経済課にも置いておりますので、必要な時はぜひお越し下さい。

🐾 30年前は獣害に困ってなかった？なんでだろう？

皆さんとお話していると、「昔は獣害なんてなかったのに……。」という声をよく耳にします。

実際、30年前と比べて、「今は動物の数が増えている」と感じている方も多いのではないのでしょうか。

では、それよりもさらに昔はどうだったのでしょうか。少し考えてみましょう。



江戸時代の野生動物は、今より少なかったのでしょうか。それとも多かったのでしょうか。

もし当時も獣害があったとすれば、

人々はどのような工夫をしながら動物と向き合い、共存してきたのでしょうか。

少し気になってきませんか？

意外と知られていない、野生動物と人との歴史を一緒に見ていきましょう！



野生動物と人の歴史

【対馬藩イノシシ撲滅】

対馬藩ではイノシシやシカによる農作物被害が深刻で島民の食糧不足が大きな問題となっていました。



全島的な駆除作戦「猪鹿追詰」を
実行！
約9年かけて23万人動員して
イノシシ8万頭を捕獲。
島内のイノシシを全滅させた。

【青森八戸猪飢渴

(いのししがじ)】

イノシシの大量出沒により、
農作物が食い荒らされ、
約3,000人が餓死するという飢饉が発生。



【明治時代に入り動物は激減】

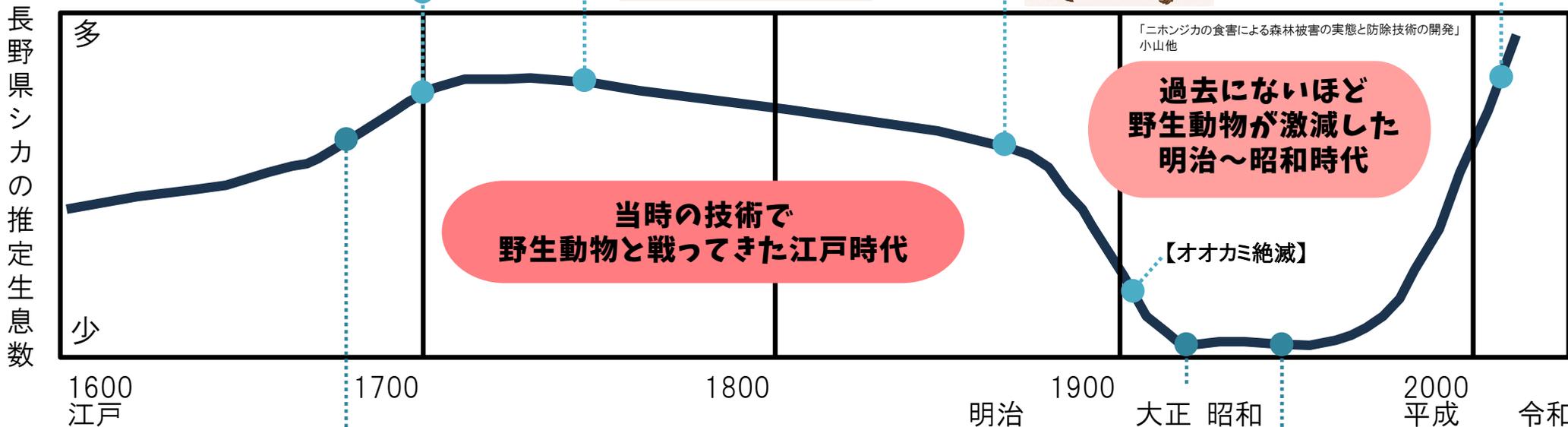
理由は

- ・銃規制が機能しなくなった
- ・高性能な銃が普及した
- ・銃猟が急速に一般化した
- ・毛皮や食肉の需要が急増した
- ・農地開発や都市化が進んだ など



【メスジカ 禁猟解除】

1994年から2007年にかけて、
メスジカも捕獲できるようになりました。
そのころには、
農作物や森林への被害が目立つ
ようになり、
一方で、シカを捕る狩猟者の数は
減っていく傾向にありました。



【生類憐みの令・諸国鉄砲改め】

武士以外の庶民が
鉄砲を持ったり使ったりすることを禁止。
獣害対策としての使用は、農具として、
狩猟や害獣駆除のため、
領主の許可を得て鉄砲を使用していた。

【明治時代以前の鳥獣被害対策】

鳥獣被害は、ここ20～30年ほどで起こり始めた問題だと思われがちですが、
実際には明治時代以前から、人々は鳥獣被害に悩まされてきました。現在
は、動物の生態が解明され、罾や防護柵の技術も発達しており、明治時代
以前と比べると、鳥獣被害対策に取り組みやすい環境が整っています。

一方、明治時代以前には、
シシ垣(石垣)を築いたり、
見張りを交代で行ったりするなど、
当時可能な方法で、
地域全体で鳥獣被害対策に
取り組んでいました。



【狩猟法大改定】

今の鳥獣保護管理法の
骨格が完成。
・狩猟鳥獣の指定
・保護鳥獣の販売、
保護鳥のひな、
卵の採取や販売の禁止

【メスジカ狩猟鳥獣から外れる】

シカの数が増えたため保護を目的として、
メスジカの捕獲が禁止されました。
また、オスジカについても、捕獲できる数が
制限されました。
その結果、
現在のシカの増加は、
当時の対策が
「成功した？」と言えます。

